

徳島県立農林水産総合技術支援センター
令和2年度 第2回外部評価委員会議事録

日時：令和2年12月23日（火）
場所：農林水産総合技術支援センター 大会議室

1 試験研究業務の評価

<質疑応答>

●農業分野（スマート農業の推進）

委員：どのような方法で生産者の皆さんの要望を把握して、研究に取り組んでいるのかを教えてください。

回答：農業支援センターから挙げられた現場課題について、普及組織と研究組織が協議し、重要性の高い課題を研究課題として決定している。

委員：農家と共同で研究する場合、どのように農家を選定しているのか。

回答：現場の方で、代表的な生産者を選んでいただいて、その方と一緒に仕事をさせてもらっている。

委員：研究予算の確保を努力いただきたい。

回答：優先順位が高い課題から取り組み、限りある予算を有効に使うという方向で取り組んでおります。

委員：スマート農業技術の導入には、コストがかかるが、どのように普及させていくのか。

回答：経営評価し、導入技術に必要な経営規模を示せるようにしたい。また、遠隔モニタリングシステム、例えば人参のトンネルの温度は、地域とか植え付け時期の違いを代表したほ場で測定し、効率的にデータを示す方法が考えられる。

委員：実証試験の規模は、どの程度のほ場で実施しているのか。

回答：ニンジンのICT栽培管理支援システムは、現地ほ場8箇所。レンコンは、大規模な経営体16haで実証している。

●農業分野（気候変動対策）

委員：「阿波白秀」、「阿波ほうべに」をどのように普及させていくのか教えてください。

回答：「阿波白秀」は、台風が来る前の作型への導入を図っている。

「阿波ほうべに」は、全農と協力して、課題が克服できるよう、取組を継続していく。

委員：「あきさかり」はどのあたりの地域で栽培されているか。

回答：主に吉野川の中流域で、高温障害が多かった「キヌヒカリ」に置き換わる品種ということで進めている。

委員：湿害軽減のための「緩傾斜整備技術」の実証は、どの程度の規模で実施したのか、また、その効果は。

回答：県内約1haで実施。排水効果は確実にあるが、特殊な機械が必要なことや土壌を乾燥させなくてはいけない等、導入への課題もあり、普及が遅れている。

委員：「あきさかり」は、「コシヒカリ」比べて、食味のバラツキが大きな品種なのか。

回答：土壌の条件とか気象の条件で食味が異なるため、田植えの時期とか、施肥時期とか、肥料をやる時期とかやる量とかで調節し、食味をできるだけ均平化する技術の開発に取り組む。

委員：トロピカルフルーツ低コスト栽培技術の開発で、徳島県産のバナナができたらいかなと思う。

回答：温暖化が進み、熱帯果実が徳島県で栽培できるようになった時に、栽培指導ができるような技術力を我々が持つておく必要があると考え、研究に取り組んでいる。

●農業分野（新たな価値の創出・生産力強化）

委員：農業労働力の安定確保に向けた調査研究について、ある作業の労働力が足りない場合、その作業自体をいくつかの工程に分けていくというステップが必要になるのではないか。

回答：県内各地域の作物について、細かく仕事を分けて、どこの部分が足りないのか分析し、時期によって必要な労働力、作業を組み合わせ、需要と供給をマッチングする際の指標となるよう取り組む。

委員：個々の農家は、人手が足りないということで困っている。細かい作業の負担が軽減できればやっていただきたい。

委員：クビアカツヤカミキリの現在の対策状況を教えていただきたい。

回答：化学生物農薬が、桃で6剤、桜で8剤登録されている。

●畜産分野

委員：サイレージの好气的変敗防止技術の検討について、ロスがどれくらい増えているのか。

回答：ロス率というのは正確には測定していないが、サイレージを開封すると1日で使い切れない場合、傷んでくるということがあり、無駄にならない技術開発に取り組む。

委員：UV-LEDを使った鶏舎の管理について、飼育している鶏舎内や生体へのUV照射を検討するのか。

回答：徳島大学と連携し、鳥が大きくなっていく、成長の過程での使用を検討する。

委員：生体にUVを照射するというのは、いろいろなことが起こることが危惧されるので、考慮して検討いただきたい。

●林業分野

委員：シカの防護柵の効率的な運用について、通知を受けてからの対策を教えてください。

回答：植林後、他の草をある程度食べている間に対策をできるというようなシステムを組んでいきたい。

委員：アラゲキクラゲの需要はあるのか。

回答：国内で流通している分は、ほとんど中国等から乾燥品が輸入されている。夏場のシイタケの値が下がる時期を中心に普及を進める。

●水産業分野

委員：藻場食害魚、イスズミの駆除技術はどういうものか。

回答：アワビの漁場に、好物のハバノリを餌にトラップを仕掛ける。

委員：ブルーカーボンとは何か教えていただきたい。

回答：海藻も光合成して二酸化炭素を吸収するので、藻場を増やせば森林と同じように二酸化炭素の吸収が期待される。現在、藻場の吸収能力の評価がまったくわかってない状態で、その評価からスタートする。次に、どういった所に増殖させてやれば効果的に、どんな種類の藻場がいいのかというのを技術開発を進めていく。

委員：キジハタは、現在どのような状況で養殖されているのか。

回答：漁師が取った小型の物を陸上水槽で養殖して、ユズの果皮とかを餌に加えて、徳島ならではのキジハタにしていきたい。

委員：簡易キットによる貝毒検査の効率化について、これは実際に市販の物を使ってということなのか、簡易キット自身の開発から進めていこうということなのか。

回答：国の水研の方が開発した簡易キットを用いて、検査の効率化を図る。

●特定課題：労働力不足に対応した試験研究の取組

委員：農薬散布時間は53%削減、ほ場の外周を記憶させる等の準備時間が4倍に増加とあるが、何と比較して4倍になったのか。

回答：農薬を量るとか、一般的な慣行の農薬散布にかかる準備時間の4倍ということ。自動走行ドローンについては1回記憶させれば次回から同じ作業をする必要はなくなるので、以降に利用する時には、この準備時間はなくなる。

委員：レンコンも水稻と同様な自動灌水にできないのか。

回答：レンコン田は、ほ場整備ができていない関係上、水を供給する方法が異なり、一概に取り組めない。

●全体を通じて質疑応答

委員：研究の成果を知りたいのは生産者。研究成果をどうやって周知しているのかを教えていただきたい。

回答：研究成果の発表会、現地での技術紹介、研究所ニュース等の情報誌の発行、ホームページでの発信等、様々な方法で周知に努めている。